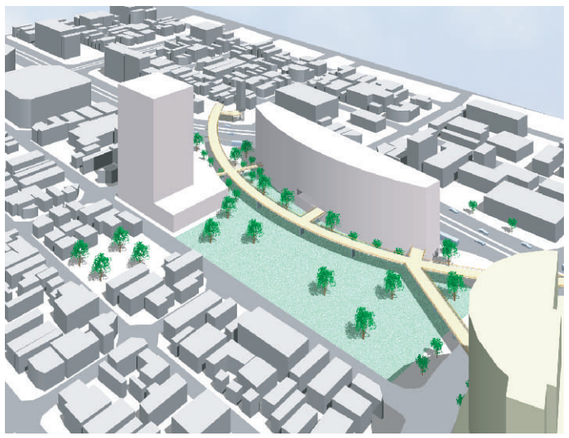
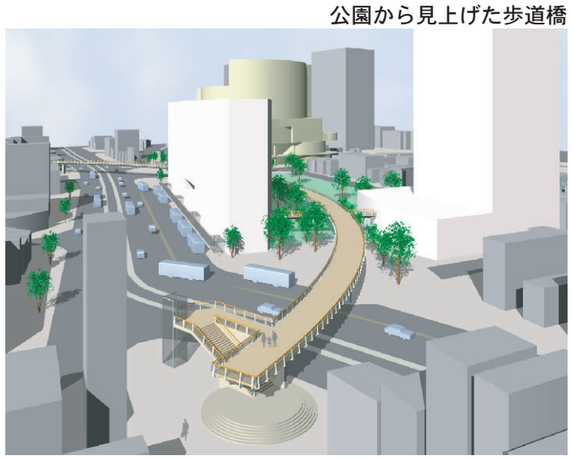
橋梁のデザイン
REFRESHING BRIDGE

学籍番号　1045028
氏　　名　石川眞理

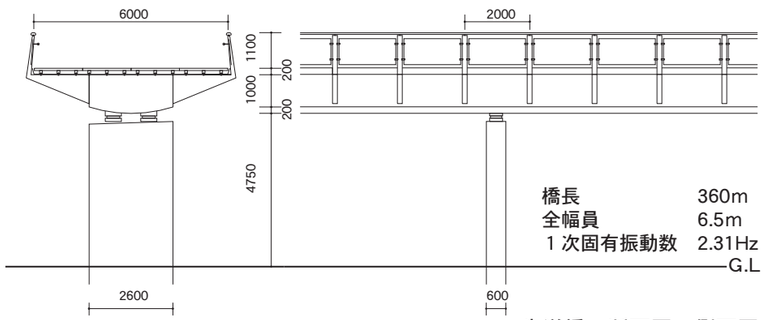
公園から見上げた歩道橋



文化プラザ側からの鳥瞰パース



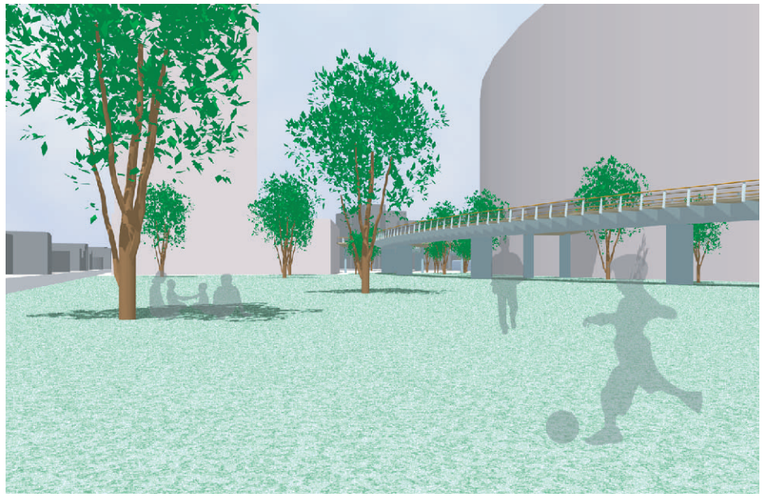
はりまや橋側からの鳥瞰パース



歩道橋　断面図・側面図

はりまや橋公園から階段を望む

橋上を文化プラザに向かって



公園からの眺め

平面図

REFRESHING BRIDGEの計画・設計の前提条件は、現在、高知市の中心市街地東の核の形成に向けて進められている、九反田周辺地区、中種東周辺地区の整備事業の一つで、「土佐橋地区街なか再生事業」である。九反田に文化情報機能を持つ拠点を形成すべく、（仮称）市民総合文化プラザを建設中であり、その二階からはりまや橋公園にかけて、連結歩道橋を整備する計画である。

本歩道橋は、既存の歩道橋を撤去し、はりまや橋公園から横堀公園をつなぐ、曲線の歩道橋である。

架橋位置は高知市の中心部であり、周辺が雑然としているので、橋自体を、すっきりとしたデザインにするために、鋼製箱桁構造、側面はブラケットの持ち出しとし、スレンダネスを強調した。また、高欄はブラケットと一体化した鋼製支柱と強化ガラスを用いることにより、透明性を重視した。歩道橋自体には透明感を求めたが、はりまや橋側の階段、エレベーターは、ランドマーク的な存在ととなっている。木床板を採用し、トップレールおよび下段手すりを木製とすることで、木材立県としての高知らしさと、自然素材の柔らかさを醸し出している。

本歩道橋の計画・設計にあたっては、単に歩行者動線を確保するだけでなく、長期的視野のもと、より良い都市空間の創造を目指し、周辺地区の総合的な整備を提案した。

観光の拠点となるインフォメーションスポットを含んだ商業・業務施設と住宅部を持つ建物Aと、都市型高齢者交流施設と集合住宅を持つ建物Bの二棟を建設した。設計範囲の既存建物のボリュームを新しく建設した建物に集約することにより、公開空地としての公園が整備された。

歩道橋は有効幅員６ｍを採り、建物と歩道橋の間に植樹することにより、緑のネットワークを結ぶ快適な歩行者空間が形成されている。

橋を曲線橋としたことで、景色の変化を楽しめ、広々とした公園では、老若男女を問わず様々な人々が、心地よいひとときを過ごすことができる。